

大工原銀太郎博士のデスマスク 九州大学へ移管

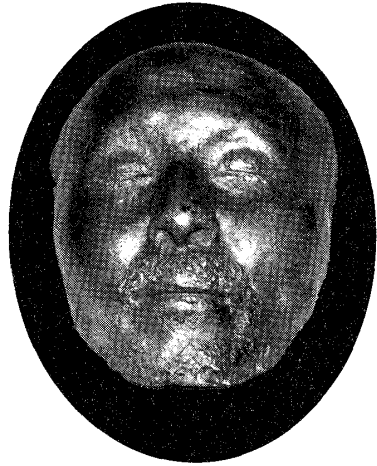
大工原銀太郎博士は、明治元年（1868）正月3日長野県上伊那郡南向村に生まれ、明治27年（1894）7月に東京帝国大学農科大学農芸化学科を卒業し、その翌年の4月に技師として農商務省農事試験場に採用された。農業環境技術研究所の前身である農事試験場は明治26年に設立されているから、博士は、まさに農業研究の揺籃期を担った人である。

その後、大正10年に九州帝国大学の教授に任じられた。大正15年には、九州帝国大学の第3代総長になり、昭和4年まで在職した。昭和4年11月には同志社大学第9代総長に就任している。そして、昭和9年3月9日、盲腸炎により突然死去した。享年66歳であった。

大工原博士はこの間、日本の土壤肥科学研究の先頭集団として活躍した。特筆されるのは、酸性土壌の研究とその改良技術である。「全酸度の発見」、「酸性土壌の石灰による改良」、「世界の土壤学教科書への酸性土壌の研究紹介」、「土壤学の世界的泰斗ラーマンとの論戦」などが評価のためのキーワードであろう。

死者の顔を蠟でかたどるデスマスクは、肖像彫刻のモデルとしてエジプトとローマで使われたという。中世のヨーロッパでは、デスマスクそのものが記念肖像として使われた。20世紀においても、著名人のデスマスクは記念肖像となっていることが多い。大工原博士のデスマスクも、この例に漏れない。

大工原博士のデスマスクが、大工原家のご遺族から当所に預けられたのは、久保祐雄 農業環境技術研究所第2代所長の時代（1985）であった。その後、熊澤喜久雄 東京大学名誉教授（農業環境技術研究所運営委員および研究レビュー外部評価委員）を介して、山田芳雄 九州大学名誉教授、九州大学大学院農学研究院院長 坂井克己教授および和田信一郎助教授から、大工原博士のデスマスクを九州大学資料室に移管してほしい旨の連絡を当所は受けた。



大工原銀太郎博士のデスマスク



左側：山田教授，右側：陽理事長

その結果，大工原博士のデスマスクは，ご遺族の希望にそって総長を務められた九州大学に移管することになった．平成13年5月15日，当所において山田教授一行にお渡しした．

（大工原銀太郎博士についての詳細は，「熊澤喜久雄：大工原銀太郎博士と酸性土壌の研究，肥料科学，第5号，9-46（1982）を，移管の経過については，当所のホームページの「情報：農業と環境 No.14」を参照されたい．）
